

長崎大学教育学部の現状

○本学部のミッションと特徴

本学部では、「人間形成に関わる専門的学術の研究を通して、高度な学識と豊かな人間性及び実践的な指導力を備えた専門的教育者を育成する」を理念に掲げ、幼児と小・中・高等・特別支援学校の教員養成を行っています。特徴として、

- [卒業に2つの免許・資格の取得が義務付けられている](#) (表 1)
- 1年次から体系的な実習が構築され2年次から公立学校での職場体験実習がある
- 小学校教育コースの入試(学校推薦型)に離島教育枠(5名)がある
- 多様な教員就職対策が実施され、教員就職率が上昇傾向を維持している
- [特別支援・インクルーシブ教育に力を入れており、実習等の科目や研究体制が充実している](#)
- 九州の国立大学の中で唯一保育士の資格が取得可能なカリキュラムがある

等、時代や地域ニーズに応じた教員養成を地域と連携して行っている点が挙げられます。なお、令和2年度入学生からは、1学年の学生定員が240名から180名に削減され、中学校教育コースの音楽・美術・技術・家庭の各専攻の募集が停止になりました(この4教科の中学校及び高校の教員免許状は取得可能です)。

(表 1) 卒業に必要な免許種又は資格

コース	主免許状	卒業要件免許状
幼児教育	幼稚園一種	小学校二種又は保育士
小学校教育	① 小学校一種	幼稚園又は中学校又は特別支援の二種
中学校教育	② 中学校一種	小学校二種又は高校一種
特別支援教育	特別支援一種+①又は②	

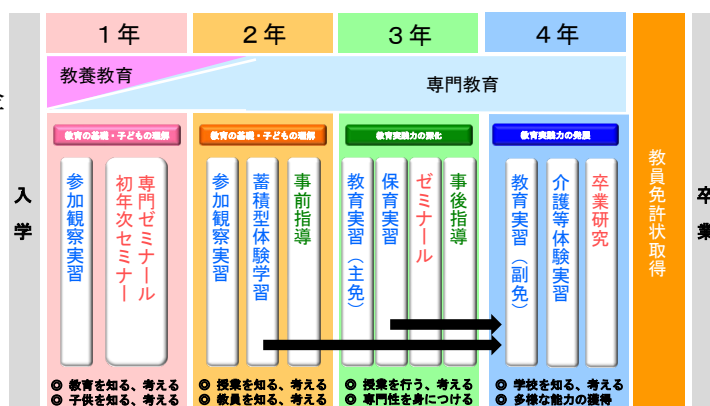
○多様な実習と指導体制

図1に実習風景を、図2に本学部の特徴である実習の体系と学生指導に寄与するゼミナール系科目の配置を示します。まず、実習は、1年次の附属学校園での参加観察による学校や子どもの実態を知る学習から、3年次9月の主免実習、4年次10月の副免実習とその前後で授業の作り方等を学ぶ事前・事後指導、及び教員になるためには必修である介護等体験実習(福祉施設での実習)により構成されています。主免・副免実習は主に附属学校園で行われますが、小学校教育コースで強い教員志望と一定以上の学力を有した学生は、2年次からある蓄積型体験学習の実習校(公立)で引き続き主免実習を行います。また[蓄積型体験学習](#)の一環で、希望する学生や離島教育枠で入学した学生は、3年次に離島・へき地実習に行くことができます。これらの交通費やテキスト代等で必要な経費を入学時に実習費として徴収させていただきます

いただき、千円以上の残金が発生した場合は卒業時に学生に返金



(図 1) 離島・へき地実習の風景



(図 2) 実習と学生指導の体系

するようになっていきます。そして、学生指導は、2年次以下が担任制、3年次以上がゼミナールの指導教員制を採用しており、特に1年次では初年次セミナーの担当教員も含め、複数教員で学生を見とる体制を取っています。また実習前には、臨床心理士の資格を持つ教員による心身の健康チェックを行い、学生の指導に役立っています。さらに大学全体の取組みとして、心療内科で診断を受けた学生に対しては障がい学生支援室が発行する合理的配慮願いの文書に基づき、授業等で学生が安心して授業が受けられるように体制等が整備されています。

○学生生活

本学は、他大学に比べてコロナ禍での行動制限を厳しく設定しましたが、その結果、附属学校園を含め大規模感染は発生しませんでした。また遠隔授業など情報端末を用いた教育が進展し、これからの社会人に必須の情報(機器)活用力が飛躍的に向上しました。一方で、学生は対面活動が制限されたため、教育や教員に対する深い考察や非言語能力の育成が十分できていない、或いはオンラインゲームや SNS に費やす時間が増えることで生活リズムが崩れるといった問題が見受けられます。これらの光と影の部分は個人差が大きく、大学と家庭が一体となって学生を良い方向に導くことが必要です。

近年、教員はブラックな仕事と言われますが、附属学校園でも校務や教育で情報(機器)の活用が進み、業務の見直し等が進められた結果、家庭と仕事のバランスが良くなり、教員の意欲向上と教育の質の改善が進んでいます。教育実習においても、17時から20時までには学生は降園・下校し、大学でグループ作業が必要な学生も21時30分には帰る制度を導入しています。年2回の学生代表懇談会などを活用し、学生のニーズや思いを受け止めながら、学部改善・改革を進めます。

○就職支援対策～教員就職率を中心に～

教育学部は学校教育教員養成課程であることから、教員就職率は文部科学省だけでなく広く社会から注目されています。本学部では、就職委員会が中心となって後援会と玉園同窓会の支援も頂きながら「教員採用選考試験対策特別講座(教採特講)」「教採2次対策セミナー」等を課外講座として開講しています。研究者教員と実務家教員(元学校教員)が協力することで、学生が教師になる夢を実現できる体制を築くことで、試験に合格するだけでなく、教員としての資質・能力を伸ばす活動をしています。表2から本学部の教員就職率が上昇傾向にあることが分かります。令和3年度は国立系教員養成大学・学部のなかでトップ5に入りました。教職に就かない学生は、他学部生同様に全学のキャリアセンターから企業の求人・公募や各種公務員試験に係る情報を入手でき、志願票の添削指導や面接指導も専門職員から受けられる体制が築かれています。近年、就職支援対策で最も効果がある玉園同窓会ですが、加入率が20%台と低迷しています。会費により運営をされていますので、入会の検討を是非お願いします(学生時の入会がお得です)。詳しくは[一般社団法人長崎大学玉園同窓会\(https://tamazono.net/\)](https://tamazono.net/)を検索してください。

大学院への進学先は、高度な専門職教員を目指す教職大学院や、研究者を目指す他大学の大学院があります。教職大学院では複数教員による指導や多様な実習により、教員就職率が100%となっています。

(表2) 学部教員就職率 (H30～R4)

卒業年度	H30	R1	R2	R3	R4
卒業生数	236	228	244	235	231
教員就職者数	149	143	165	158	163
教員就職率(全体:%)	63.1%	62.7%	67.6%	67.2%	70.6%

※年度末集計値。R2年は9月卒業3名を除く